私のキャンパスライフ

石巻専修大学生に「私のキャンパスライフ」を聞いた。本学は勉学、スポーツ、サークルのほかに、学生のさまざまな活動やチャレンジを応援する施設や環境が整っている。

憧れの仕事に近づく　資格取得

村上英樹さん（経営3・宮城県東北高）

旅行業界や観光業界の最新事情を研究し、必要な資格の取得を目指す大浪健一ゼミで昨年、国内旅行業務取扱管理者試験に合格した。昨夏、試験1カ月前からアルバイトを休み、自宅近くの図書館で終日机に向かった努力が実った。

試験は年1回。海外旅行業務も扱える「総合旅行業務管理者」の資格を在学中に取り、旅行業界への就職活動に生かそうと計画する。今年9月の「総合」試験を目指し勉強に力が入る。

転機は、中学生の夏休みに家族で北海道に旅行したこと。祖父の「親戚に会いたい」という望みをかなえるのが目的だったが、旭山動物園や富良野のラベンダー畑も旅程に組み込まれ、一生の思い出になった。「旅行会社の方がコースを工夫して、家族みんなが楽しめるようにプランを練ってくれたおかげ。僕もこういう仕事に就きたいと感激しました」

まだ海外に行ったことはないが「歴史が好きなのでギリシャの古代遺跡を見てみたい」。限られた予算でも楽しめる旅を提案したいと考えている。

合格証を手に笑顔の村上さん

音楽聴いてリラックス　自宅通学サポートバス

郡瑞季さん（人間2・岩手県北上翔南高）

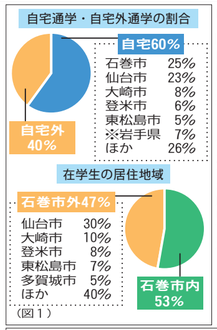
在学生の約6割は自宅から通学している。JRや高速バスでつながる仙台市や近隣の自治体のほか、岩手県内からも50人が通う（図1）。その足を支えるのは、片道100～500円と格安で利用できる大学直行の学生専用「自宅通学サポートバス」だ。

登校便は、宮城県内が大崎市―美里町―涌谷町を経由するルートと栗原市―登米市を経由するルート。岩手県からは一関市、北上市から大学に向かうルートがある（図2）。1時限目、2時限目に間に合うようにダイヤが2便ずつ組まれている。

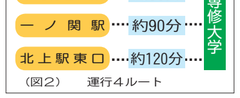
北上市から通う郡さんは、朝はJR北上駅を午前8時前に出発するバスに乗車。帰りは午後3時15分か6時30分発の下校便を利用する。最寄り駅から北上駅までは電車で10分。直行バスの存在が、憧れの人間学部人間教育学科への入学を可能にした。

車中での約2時間はリラックスタイム。Jポップを聴いて過ごし、好きなアーティストが増えた。「自宅通学だから規則正しい生活が送れる。バスの窓から見える景色に季節の移り変わりを感じ、夕日に見とれる貴重な時間です」とほほ笑む。保護者の心情に寄り添える保育士を目指している。

車内でリラックスする郡さん



（図1）



（図2）　運行4ルート

受験生に情報提供　学生スタッフ

阿部百花さん（経営3・宮城県石巻市立女子商業高＝現石巻市立桜坂高）

オープンキャンパスで大活躍する「学生スタッフ」。キャンパスライフを紹介したり、キャンパスの案内、受験生の疑問・質問に応じる相談コーナーなどを運営する。

阿部さんは掲示物を製作する装飾担当リーダーを務める。

リーダーは2年連続。「せっかく来てもらった高校生に少しでも内容の濃い情報を伝えたい」と話す。昨年は全サークルにアンケートを配り、活動内容を具体的に教えてほしいと依頼。代表の個性や雰囲気が反映された「サークル紹介」の掲示は好評だった。

高校生から「それぞれのサークルの活動状況をもっと知りたい」という要望が多かったため、今年も各サークルにアンケートへの協力を依頼し、さらに受験生が知りたい情報を盛り込む計画。

「受験生の興味や不安は私たちも経験したこと。経験やアイデアを生かし、学年の垣根なく活動できるのでやりがいがあります」と意欲を語る。

年内のオープンキャンパスは4回（6月26日、7月23・24日、8月28日）。総勢39人が準備に追われている。

学生スタッフのメンバー。2列目、左から2人目が阿部さん

コンクール入賞が目標　ロボット製作

石原佳汰さん（理工3・青森県青森工業高）

機械・学科の仲間3人（いずれも3年次生）とコンピューターを使って設計・デザインし、3Dプリンターで出力した部品を組み合わせてロボットを作っている。「設備が整っていて、先生方の指導をいつでも受けられる。充実した環境です」と笑顔を見せる。

目標はロボットコンクールで入賞すること。国内予選に出場した第7回国際テノ・マイクロアプリケーションコンテスト（4月、仙台市）には、ジャイロセンサーと加速度センサーを使い、操縦者の腕の傾きで操るロボットを出品した。入賞はできなかったが「ロボットにどういう仕事をさせるか、ソフト面が重要だと実感しました。

高校時代は自動車ボディーの軽量化に取り組むなど、ものづくりが好きだ。ロボット製作の魅力を「アイデアがまとまるまで苦労しますが、形になり、思い通りに動いた時の爽快感」と語った。

製作したロボットや部品を持つメンバーら。中央が石原さん

学生のチャレンジ応援　充実の施設

石巻専修大学ユニバーシティハウス

昨春キャンパス内に完成した学生寮。石巻専修大学ユニバーシティハウスは4階建て150室で全室個室。2年次生2人に寮生活を紹介してもらった。

御簾納優花さん（理工2・東京都明治学院東村山高）　初めての一人暮らし。建物入り口と各フロアはセキュリティー扉があって安心です。

大平楓月さん（理工2・埼玉県星野高）　硬式野球部のマネジャーをしていて、練習で遅くなってもすぐ帰れるのが助かります。

御簾納　バランスがとれたおいしい食事も朝夕ついている。

大平　朝はパンが人気。和食だとごはん大盛りの男子も多いです。

御簾納　土日は部屋のミニキッチンで自炊を楽しんでいます。

大平　家具は備え付けですが、私はベッドを寮際に寄せて、部屋を広く見せるよう工夫しています。冬にこたつを置いたら友達がよく入りにきました。

御簾納　部屋では遅くまでおしゃべりしたり勉強したり。皆でやると勉強もはかどります。

大平　4月にはラウンジで1年次女子の歓迎お茶会を開きました。昨年は体育館で運動会を開催。寮生同士、距離を縮めていければと思います。

御簾納　本格的に実験が始まりますが、授業の空き時間は寮に戻って一休みするなど、時間を有効に使っていきたいです。

ラウンジで談笑する御簾納さん（左）と大平さん（中）

安心・快適な寮生活

ゆとりの閲覧室　貴重な書籍

図書館

「図書館が大好きになりました」。赤坂恭子さん（理工2・岩手県盛岡北高）は、授業が終わった後、図書館でアルバイトを行っている。書籍が番号順に並んでいるか調べる配架点検などで本に触れる機会が増え、「図書館を身近に感じるようになった」と言う。

読書や授業の準備だけでなく試験前にも必ず利用している。

「パソコンが使えるので便利。3階には映画を楽しめるAVコーナーもあります。雑誌や全国の新聞がそろっているし新刊『ベストセラー』コーナーも魅力。学生はもっと図書館を活用してほしい」

気に入っているのは2階のゆったりとした閲覧室とテイラー文庫。東日本大震災で津波の犠牲になった米国女性テイラー・アンダーソンさんを顕彰して同館1階に設置されたテイラー文庫は、国際交流、英語教育、異文化理解につながる絵本や書籍など60冊が並ぶ。

「貴重な本がそろっています」

※石巻専修大学図書館：蔵書は17万7千冊。開館は月～金曜日の9時～19時30分。

お気に入りのテイラー文庫を紹介する赤坂さん

海と山と温かい人々

石巻専修大学

「海と山の自然があり、温かい人々がいる。そんな蛤浜の魅力を伝えたいと、ずっと考えていました」

津波により蛤浜はがれきで埋まった。住民は9世帯から2世帯5人に。故郷の存続が危ぶまれた。亀山さんも最愛の妻を失った。勤めていた母校である宮城県水産高の教師を辞め「蛤浜の再生」を決意。「前だけを見る」ことで悲しみを封印した。支えられたのは、全国から集まったボランティアの若者たちと、家族のような村の人々だった。

「古民家で飲むコーヒーは9月に。にとどまらない。地域に眠る資源の再発見・再編集での事業の創出に乗り出した。今、力を入れているのは、牡鹿半島一帯で過剰に増えた野生のニホンジカの再利用だ。肉はカフェで、皮や角は工芸品や小物として生まれ変わらせた。

亀山さんは、宮崎大学を卒業後、石巻に戻り、石巻専修大学大学院理工学研究科の角田出研究室で、魚の生理や環境を研究。角田教授とともに全国の里海を駆け巡った。

■　■　■

蛤浜で生まれ育った亀山さんは、東日本大震災で被災を乗り越え、築100年になる自宅を改装、縁側や畳敷きを生かした カフェを2013年3月11日にオープンした。自家焙煎豆のコーヒーと鹿肉カレーや海苔パンなど地元の食材を使った料理でもてなす。

然体験の場として工房、宿泊施設造りも考えている。「点から面へ発展させたい」

蛤浜での挑戦は続く。

「物事を論理的に進める術は研究室時代に培われました。角田先生の教えが今の土台になっています」。蛤浜再生プロジェクトには「生物の生態系を守る」「持続可能な地域づくり」「食べ物を慈しむ」姿勢が貫かれている。

今後は、自山と海に囲まれ付近にはツリーハウスも

中央が亀山さん。左・島田暢さんと右・魚谷浩さんはボランティアで石巻を訪れ、亀山さんの右腕としてプロジェクトを引っ張る＝はまぐり堂

人気カフェオーナー　OB 亀山貴一さん

「Cafeはまぐり修」はじめスタッフ5人が仕込みや開店準備に忙しい。窓外には深い緑と穏やかな海が広がる。

「カフェはまぐり堂」（石巻市桃浦字蛤浜）は石巻専修大学から東へ車で20分、牡鹿半島の小さな漁村にある。入り江を見下ろす高台に佇むカフェの店頭には開店を待つ客が並んでいた。店内ではオーナーの亀山貴一さん（平18石院理工）の被災を乗り越え、築100年になる自宅を改装、縁側や畳敷きを生かした カフェを2013年3月11日にオープンした。自家焙煎豆のコーヒーと鹿肉カレーや海苔パンなど地元の食材を使った料理でもてなす。

「故郷の魅力伝えたい」

「かまどで炊いたごはん」……。日常から少しだけ離れた魅力が口コミやメディアで広がり、創業2年目には年間1万7千人が訪れる人気店に。

■　■　■

夢の実現はカフェだけにとどまらない。地域に眠る資源の再発見・再編集での事業の創出に乗り出した。今、力を入れているのは、牡鹿半島一帯で過剰に増えた野生のニホンジカの再利用だ。肉はカフェで、皮や角は工芸品や小物として生まれ変わらせた。

亀山さんは、宮崎大学を卒業後、石巻に戻り、石巻専修大学大学院理工学研究科の角田出研究室時代に培われた魅力が口コミやテレビで広がり、創業2年目には年間1万7千人が訪れる人気店に。

■　■　■

夢の実現はカフェだけにとどまらない。地域に眠る資源の再発見・再編集での事業の創出に乗り出した。今、力を入れているのは、牡鹿半島一帯で過剰に増えた野生のニホンジカの再利用だ。肉はカフェで、皮や角は工芸品や小物として生まれ変わらせた。

亀山さんは、宮崎大学を卒業後、石巻に戻り、石巻専修大学大学院理工

サークル紹介

本学のクラブ・サークルは44団体（特別団体3、文化会18、体育会23）。5団体の代表に今後の目標を挙げてもらった。

学生会

阿部貴之会長（理工3・青森県八戸西高）は「学部や学年、サークルの垣根を越えた新たな学生交流イベントを企画しています。サークル活動の支援や地域イベントへの協力などを通し、大学を盛り上げていきたい」と熱意を語る。

企画立案に向けて作業に取り組む学生会のメンバー

硬式野球部

南東北大学野球リーグ戦で優勝5回の実績を誇り、部員総勢93人が日々練習している。高橋良希主将（経営4・宮城県東北工業大学高＝現仙台城南高）は「ここぞの場面で力を発揮できるよう勝負強さを鍛え、リーグ優勝を目指す」と語る。

打撃陣の活躍が優勝のカギ。写真は春季リーグの山形大学戦（4月30日）

女子競走部

創設1年目で『杜の都駅伝』（全日本大学女子駅伝対校選手権大会）に出場。2人の新入生を迎え、部員は総勢9人に。「チームに競争意識が生まれ、いい刺激になっています。連続出場し、今度は入賞を目指します」と原田詠麻主将（経営2・静岡県静岡北高）。

昨年新設された400㍍トラックで練習に励む部員

弓道部

東北地区学生リーグで女子は2部、男子は3部に所属。庄子颯人主将（理工3・宮城県仙台高）は練習を週4日に増やし「男女とも今年こそ昇格したい」。入場から弓を射て退場するまでの一連の動作を反復練習。体幹の強化と集中力アップに取り組んでいる。

今年度の部員18人。前列左から3人目が庄子主将（学内の弓道場で）

石巻専修大学

支援サークル「ひだまり」研究会

幼児から中学生まで、地域の子どもと一緒に遊ぶ会を月1回、学内で開いている。「家や学校では体験できない企画を考え全力で楽しませたい」（高橋涼さん＝人間2・神奈川県横浜高）

手形でアートを作るハンドペイント